

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 国立民族学博物館研究報告 vol.41-3; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00008443">http://hdl.handle.net/10502/00008443</a>

# 国立民族学博物館 研究報告

## Articles

Mio, Minoru

**Believing through Things: Corporeal Religious Practices and the Transformation of Spirit Cults in Mewar, India**

## Research Notes

Yamakoshi, Hidetsugu

**Art in Criticism of Capitalism: Case of ASARO in Oaxaca**

## Research Information

Taniguchi, Yoko

**Reconsidering of the Meaning of “Children Are Reared by Society as a Whole”: Focusing on the Practices of Two Villages in Twentieth Century Japan**

vol.41 no.3—2017

## 論文

モノを通じた信仰

——インド・メーワール地方の神霊信仰における身体感応的な宗教実践とその変容——  
三尾 稔

## 研究ノート

資本主義批判としてのアート

——オアハカ州の ASARO を事例として—— 山越 英嗣

## 資料

**Reconsidering of the Meaning of “Children Are Reared by Society as a Whole”: Focusing on the Practices of Two Villages in Twentieth Century Japan**——Yoko Taniguchi

ISSN 0385-180X



National Museum  
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-6876-2151



国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 TEL.06-6876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

---

41 卷 3 号

2017 年

---

## 目 次

### 論文

#### モノを通じた信仰

——インド・メーワール地方の神霊信仰における身体感応的な宗教実践とその変容——

.....三尾 稔..... 215

### 研究ノート

#### 資本主義批判としてのアート

——オアハカ州の ASARO を事例として—— .....山越 英嗣..... 283

### 資料

#### Reconsidering of the Meaning of “Children Are Reared by Society as a Whole”:

Focusing on the Practices of Two Villages in Twentieth Century Japan

..... Yoko Taniguchi..... 315

寄稿要項・執筆要領..... 331

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 41 No. 3

2017

---

**Articles**

- Mio, Minoru                      Believing through Things: Corporetic Religious Practices and the Transformation of Spirit Cults in Mewar, India..... 215

**Research Notes**

- Yamakoshi, Hidetsugu        Art in Criticism of Capitalism: Case of ASARO in Oaxaca..... 283

**Research Information**

- Taniguchi, Yoko                Reconsidering of the Meaning of “Children Are Reared by Society as a Whole”: Focusing on the Practices of Two Villages in Twentieth Century Japan..... 315

# 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

平成 28 年 7 月 4 日

研究出版委員会

## 1. 国立民族学博物館研究報告の目的

文化人類学及びその関連分野に関する論文、書評論文、資料、研究ノート（以下「論文等」という。）を掲載する。

## 2. 原稿区分

国立民族学博物館研究報告（以下「研究報告」という。）の原稿区分は次のとおりとする。

- (1) 「論文」：文化人類学及びその関連分野に関するオリジナルな研究の成果をまとめたもの。
- (2) 「研究ノート」：文化人類学及びその関連分野の発展に寄与する研究の過程で得られた、新しい発見や仮説を提示したもの。
- (3) 「資料」：文化人類学及びその関連分野の発展に寄与する資料や情報を開示・紹介するもの。
- (4) 「書評論文」：あるテーマに関連する複数の研究書や研究論文を取り上げ、研究動向の考察を試みるもの。

## 3. 寄稿資格

研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 本館の専任研究教育職員、客員教員・特別客員教員及び本館の活動に関わる各種研究員（機関研究員、特任研究員、外国人研究員、共同研究員、外来研究員、特別共同利用研究員等）
- (2) 本館の組織・運営に関与する者及び関与した者
- (3) 本館の専任研究教育職員を研究代表者として組織された研究プロジェクトの研究分担者及び研究協力者
- (4) その他研究出版委員会（以下「委員会」という。）が適当と認めた者

## 4. 論文等掲載までの過程

寄稿された論文等は、委員会が選定した審査員による審査結果を踏まえて、委員会が①採用、②条件付き採用、③再査読、④不採用のいずれかを決定する。

## 5. 審査事項

- (1) 研究報告に掲載する論文としての主題の妥当性
- (2) 文化人類学及びその関連分野への貢献度、独創性、新規性
- (3) 未発表論文であること
- (4) 素材・資料の妥当性、提示方法の適切さ
- (5) 内容の完成度、論理展開の明確さ・妥当性
- (6) 章・節などの全体構成の適切さ
- (7) 文章・表現の適切さ
- (8) 参考文献の妥当性、引用の適切さ
- (9) 原稿区分（「論文」「研究ノート」等）の適切さ
- (10) 執筆要領の遵守

## 6. 審査基準

「採用」：このままで掲載可能なもの（再審査不要であるもの）

「条件付採用」：内容に関わる部分での修正・補筆等の必要があるが、指摘された部分を修正・補筆すれば改めて査読者が査読する必要がなく、委員会の判断に基づき掲載可能なもの

「再査読」：内容に関わる部分での修正・補筆の必要があり、書き直し後の再査読によって掲載の可否を判断する必要があると考えられるもの

「不採用」：『研究報告』への掲載が不適当と判断されるもの

## 7. 寄稿者による改稿、最終稿

寄稿された論文等について、委員会が掲載

を決定するまでの間に、必要に応じて寄稿者に改稿を求めることがある。改稿された原稿は、委員会が審査のうえ掲載の可否を決定する。

#### 8. 異議申立て

(1) 寄稿者は、寄稿した論文等の委員会決定に異議がある場合は、異議申立てをすることができる。異議申立ては書面により、論文名・著者名・異議申立て事項・理由を具体的に記載して委員会宛に提出するものとする。

異議申立ての期限は、最初の委員会決定の通知日より1ヵ月以内とする。

(2) 異議申立てがあったときは、委員会は再審査又は異議申立ての却下を判定する。再審査の場合、委員会は再審査のための審査員を選定し、再度審査する。

(3) 委員会は判定結果及び審査結果を速やかに寄稿者へ通知する。

(4) 同一の論文等にかかる異議申立ては1回限りとし、異議申立てにかかる判定結果に対する異議申立ては受け付けない。

#### 9. 校正

編(著)者による校正は、初校のみとする。校正段階での加筆又は修正は認められない。

#### 10. 使用言語、文字

論文等において使用する言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のいずれかとするが、それ以外の言語で書く必要がある場合は、寄稿に先立って研究出版委員会にその旨申し出ること。原稿に特殊な文字・記号を用いる場合も同様である。

#### 11. 寄稿にあたっての条件

(1) 原稿の長さ

特に制限はないが、論文の場合は「ひとつの論文」として完結する内容と構成であることを要する。

(2) 未発表論文であること。

#### 12. 原稿の返却

寄稿された論文等は、採否にかかわらず返却しない。

#### 13. 原稿料等

原稿料の支払い、掲載料の徴収はしない。

#### 14. 著作権

論文等の著作権は、編(著)者に帰属する。ただし、本館はそれらの論文等を国立民族学博物館学術情報リポジトリ(みんぱくりポジトリ)で公開する権利を保有する。その場合、本館は公開される論文等の編(著)者を明記する。公開に適さない箇所があれば、その部分を抹消するため、寄稿時に研究出版委員会までその旨を申し出ること。

#### 15. 版權等

文献の引用に著作権・版權所有者の許可が必要な場合、あるいは図版や写真を掲載するために版權の取得が必要な場合は、寄稿者が手続きを行い、費用を負担する。

#### 16. 寄稿・連絡先

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館内

研究出版委員会

電話 (代)06-6876-2151

ファックス 06-6878-8429

e-mail : hensyu @ idc.minpaku.ac.jp

#### 附則

この要項は、平成28年7月4日から施行し、平成28年7月4日から適用する。

# 国立民族学博物館研究報告執筆要領

平成 28 年 7 月 4 日

研究出版委員会

## 1. 論文等の構成

論文は、標題、著者名、要旨、キーワード、目次、本文、(必要に応じて)謝辞、注、参照文献リスト、図、表、写真から構成するものとする。

資料・研究ノート等の場合は、要旨等を省略してもよい。

## 2. 原稿の媒体

寄稿原稿は、横書きとする。原則としてデジタルデータと、A4 版の用紙に印刷した原稿との双方を提出する。

ファイルを作成するソフトは、一般に普及しているもの(MS ワード、一太郎等)を使用し、特殊なフォントを用いる場合は、フォントデータを添付する。

特殊文字や記号、イタリック体文字、注番号、ルビ等には、印刷した原稿に赤で印を付ける。また、図、表、写真の挿入箇所、(インデント、タブ等の)書式情報も同様に赤で書き込む。

## 3. 図表、写真の扱い

図、表ごとに、「図 1」、「表 1」の形式で通し番号をつけ、それぞれの標題、説明、出典等を記す。図のカラー印刷を必要とする場合は、研究出版委員会に相談すること。

写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたもの、スライド、又は解像度の高いデジタルデータを用いる。写真ごとに通し番号、説明、撮影者名をつける。又は、図と同様に取り扱い、図の通し番号に取り込んでもよい。カラー写真を必要とする場合は、研究出版委員会(以下「委員会」という。)に相談すること。

図表は、別紙に個別に作成し、一括して印刷原稿に添付すること。委員会に図のトレースを委ねる場合は、その旨注記すること。

## 4. 表記の原則

### 日本語表記

日本語の表記は常用漢字、現代かなづかいを用いる。年号、月日その他の数字はアラビア数字を用いる。ただし、慣用されている熟語や序数については著者の判断に委ねるが、個々の論文において一貫性を維持する。

年号は西暦を用いる。外来語は慣用に従う。人名、地名は、現地の発音に近いカタカナ表記を採用する。いずれの場合も、必要に応じて現地語を丸括弧内に附記する。

### 漢字表記

現地の言語が漢字表記の場合、現地語単語を日本字で表記する。固有名詞以外はカギ括弧で括る。現地の漢字表記がそれに対応する日本字と異なる場合(中国語の簡体字等)、初出の個所に丸括弧で括って、現地表記を附記する。

### 人名表記

アルファベットによる人名表記は、後述する引用文献リストの見出し人名のみを例外として、論文等の使用言語に関らず、日本人氏名のローマ字表記も含めて、名、姓の順に記し、いずれも頭文字は大文字、それ以降は小文字で表記する。

## 5. 書式細目

### 標題、著者名

本文が日本語又は中国語の場合は、本文と同じ言語での標題と著者名、次いで英語での標題とローマ字表記の著者名を、この順に記す。本文が欧文の場合は、同じ言語での標題と著者名、次いで日本語での標題と著者名を、この順に記す。

### 要旨

論文には、本文に用いる言語にかかわらず、論文要旨を添付する。英語の要旨は 200

語を目安とする。

## キーワード

論文集の内容を代表する5語以内（原則として）のキーワードを英語で添付する。

## 注

注は論文全体で通し番号を付ける。本文中での注番号は、半角の数字と丸括弧で記入する。

例 ……である<sup>3)</sup>。

注の内容文は、本文の次（謝辞がある場合は謝辞の次）、引用文献リストの前に一括して、通し番号順に記入する。

## 6. 文献引用の表記

本文や注で引用文献を指示するには、丸括弧で括って、著者の姓、半角スペース、文献刊行年、コロン、引用ページ数の順に記す。ページの桁は省略しない。ibid., op.cit., idem. といった表記はしない。

例 …である（鳥居 1927:468-469）

鳥居（1975: 468-469）は…であると指摘している。

（秋葉・赤松 1935; Marcus and Fischer 1986）

（鳥居 1913; 1927）

（石田幹之助 1942; 石田英一郎 1951）

（Geertz, C. 1960; Geertz, H. 1963）

（鳥居 1913a; 1913b）

## 7. 引用文献リスト

### 配列順

原稿末尾の引用文献リストには、本文や注で言及した文献の詳細な書誌情報を、著者名のアルファベット順に、同一著者の文献が複数あれば刊行年順に、列挙する。同一著者の同じ刊行年の複数の文献を引用している場合には、刊行年にアルファベットをつけて区別し、アルファベット順に配列する。

以下、記入すべき書誌情報の要領を日本語文献、欧文文献の2種にわたって述べる。中国語や朝鮮語の文献は日本語文献に準ずる。

### 書誌情報

日本語の論文の場合、論文名はカギ括弧、

収録書名（ないし収録雑誌名）は二重カギ括弧で括る。雑誌の巻号は原則としてアラビア数字を用いる。著者・編者名は、姓、名の順に記す。

欧文文献では、論文の標題はローマン体、収録書名（ないし雑誌名）はイタリック体で区別する。論文名、書名ないし雑誌名はいずれも、非独立語を除き先頭の文字を大文字で記す。見出しとなる著書・編者名のみ、姓、名の順に記し、間をコンマで区切る。共著、共編の場合、二番目以降の著書・編者名は名、姓の順に記す。

### a. 雑誌論文

著書、刊行年、論文の標題、収録雑誌、巻号、収録ページ、（必要に応じて）雑誌の出版地及び出版社を記す。

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4):311-330。

Keesing, R. M.

1989 *Creating the Past: Custom and Identity in the Contemporary Pacific. The Contemporary Pacific* 1(1&2): 19-42.

### b. 論文集所収の論文

著者、刊行年、論文名、収録書の著者又は編者名、書名、収録ページ、出版地と出版社を記す。欧文の場合は、収録書をInで指示し、編者名はすべて名、姓の順に記す。収録書のそれ以外の情報は、下記単行本の書誌情報の要領に従う。

鳥居龍蔵

1975 「日本人類学の発達」鳥居龍蔵『鳥居龍蔵全集』pp. 459-470, 東京：朝日新聞社（初出は1927年）。

バーンズ, J. A.

1981 「ニューギニア高地におけるアフリカン・モデル」笠原政治訳、武村精一編『家族と親族』pp.116-134, 東京：未来社。

Schneider, D.

1976 *Notes toward a Theory of Culture. In K. Basso and H. Selby (eds.) Meaning in Anthropology*, pp. 197-220.

Albuquerque: University of New Mexico Press.

c. シリーズの論文集所収の論文

シリーズ名を書名に続けて丸括弧内に記す。欧文文献の場合、シリーズ名はローマン体とする。

Ardener, Edwin W.

- 1985 *Social Anthropology and the Decline of Modernism*. In J. Overing (ed.) *Reason and Morality* (A.S.A Monographs 24), pp. 47–70. London and New York: Tavistock Publications.

d. 単行本

著者ないし編者、刊行年、書名、出版地及び出版社を記す。編者は、単編は (ed.)、共書は (eds.) で表す。

柳田国男編

- 1935 『日本民俗学』東京：岩波書店。

Clifford, J. and G. E. Marcus (eds.)

- 1986 *Writing Culture: The Poetics and Politics of Ethnography*. Berkeley, Los Angeles and London: University of California Press.

e. 翻訳書

上記に加え翻訳者名を表記し、必要に応じて原文を括弧内に表記する。

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム—古代的エクスタシー技術』堀一郎訳、東京：冬樹社。

Van Gennep, Arnold

- 1960 *The Rites of Passage*, Translated by M. B. Vizedom and G. L. Cafee. Chicago: University of Chicago Press.

f. 初版以上

荒松 雄

- 1992 『インドとまじわる』東京：中央公論 (初出は1982年、東京：未来社)。

g. 和文文献の欧文表記

Ashizawa Noriyuki (芦沢紀之)

- 1972 「実録・総戦力研究所—太平洋戦争開始前後」『歴史と人物』10: 73–95. (The Document: the Institute of Total War Abilities. *History and Persons* 10: 73–95.)

Kawakita Jiro (川喜田二郎)

- 1987 『素朴と文明』(*Primitive and Civilization*) 講談社 (Kodansha)。

Inoue Mitsusada

- 1960 *Nihon kokka no kigen (Origin of the Japanese State)*, (Iwanami shinsho 380). Tokyo: Iwanami Shoten。

h. ウェブサイト

Demmert, W. and R. Arnold

- 1996 *Language Policy*. In G. Cantoni (ed.) *Stabilizing Indigenous Languages* (Center for Excellence in Education Monograph). Flagstaff: Northern Arizona University (Internet, 26th July 2001, <http://www.ncbe.gwu.edu/miscpubs/stabilize/ii-policy/index.htm#Abstract>).

附則

この要領は、平成28年7月4日から施行し、平成28年7月4日から適用する。

国立民族学博物館研究報告 41巻3号

〔監 修〕

須 藤 健 一

〔研究出版委員会委員長〕

鈴 木 七 美

〔研究出版委員会委員〕

卯 田 宗 平

河 合 洋 尚

齋 藤 晃

竹 沢 尚 一 郎

丹 羽 典 生

林 勲 男

藤 本 透 子

ピーター・J・マシウス

松 尾 瑞 穂

南 真 木 人

吉 岡 乾

---

平成29年3月21日 発 行

国立民族学博物館研究報告 41巻3号

編集・発行 人間文化研究機構

国立民族学博物館

〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1

TEL 06(6876)2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075(441)3155 (代表)

---